

事業番号 6
千葉県 県土整備
公共事業評価審議会
平成27年度 第1回

事業再評価

江戸川左岸流域下水道事業 (江戸川左岸処理区)

平成27年12月25日

千葉県 県土整備部 都市整備局 下水道課

目次

1. 事業の必要性
2. 事業概要
3. 事業の進捗状況
4. 社会経済情勢等
5. コスト縮減及び代替案
6. 事業投資効果
7. 対応方針(案)

1. 事業の必要性

■ 生活環境の改善

- ・トイレが汲み取りから水洗になります。また、浄化槽が無くても水洗トイレが使用できます。
- ・生活排水が、溝(どぶ)や川を流れなくなるので、悪臭やハエ等の発生を防止します。
- ・生活環境及び公衆衛生が向上されることにより、病原菌等による人の健康被害が軽減されます。



『公益財団法人
千葉県下水道公社資料
(下水道を学ぼう。)]より抜粋

■ 公共用水域の水質改善

- ・汚水を集め下水処理場で、きれいな水にしてから川へ流すので、水質が改善されます。



江戸川(浦安市)



江戸川(野田市)

2. 事業概要

【事業箇所図】



2. 事業概要

項目		状況
事業化年度		昭和47年度
工事終了年度		平成52年度
下水排除方式		分流式
全体計画	処理区域面積	20,417ha
	処理人口	1,421,100人
	処理場	江戸川第一終末処理場 (9系列、能力 300,400m ³ /日最大) 江戸川第二終末処理場 (9系列、能力 464,000m ³ /日最大)

2. 事業概要

関連市	事業化 年 度	処理区域 面積(ha)	処理人口 (人)
市川市	S47	5,077	454,400
船橋市	H3	476	36,600
松戸市	S47	5,301	436,000
野田市	S56	4,184	132,100
柏市	S63	315	21,700
流山市	S56	2,872	144,500
浦安市	S50	1,697	169,000
鎌ヶ谷市	H25	495	26,800
計	—	20,417	1,421,100

3. 事業の進捗状況

項目	状況
事業の進捗状況	事業計画12,330haに対し、整備見込みは10,220haであり、整備率は83%
処理場用地の取得状況	江戸川第一終末処理場は現在、取得中 江戸川第二終末処理場は取得済み
処理施設の供用状況	江戸川第一終末処理場 60,000m ³ /日 江戸川第二終末処理場 464,000m ³ /日 事業計画の合計 処理能力524,000m ³ /日に対し、464,000m ³ /日を整備済み
供用開始区域の接続状況	接続率は93%
地元情勢等	県議会及び関連市、地元等の理解、協力は得られている。

4. 社会経済情勢等

項目	状況
社会経済情勢	新たに、大規模な宅地及び団地開発等はない。 将来において人口減少等が予測されている。
自然環境条件	水質汚濁に係る新たな環境基準の設定はない。 旧江戸川において基準値の変更があったが、事業への影響はない。
計画変更の有無 及びその程度	全体計画は、流域別下水道整備総合計画とともに必要に応じ適宜変更を行っており 現全体計画は、将来人口の減少傾向等を反映している。

5. コスト縮減及び代替案

項目	状況
コスト縮減	<p>管渠、ポンプ場及び処理場の新設・増設時については、その時点で実用化されている新技術も含め比較検討を行い、建設コストの縮減に努めている。</p> <p>また、既存施設についても適切な維持管理による延命化で、ライフサイクルコストの縮減を図っている。</p>
代替案	<p>浄化槽と下水道の費用比較の結果、下水道が経済的である。</p> <p>また、単独公共下水道と流域下水道では流域下水道が経済的である。</p>

6. 事業投資効果

【全体事業の評価】

項目	全体事業	費用便益比 (B/C)
総便益(B)	56,725億円	1.9
総費用(C)	29,856億円	

【残事業の評価】

項目	全体事業 ①	H27年度末 まで ②	残事業 ① - ②	費用便益比 (B/C)
総便益(B)	56,725億円	50,249億円	6,476億円	1.2
総費用(C)	29,856億円	24,294億円	5,562億円	

7. 対応方針(案)

継 続

【理由】

- 1 費用効果分析の結果から、流域下水道事業の投資効果が見込める。
- 2 下水道の整備率の向上とともに生活環境の改善が図られている。また、公共用水域の水質改善等も見られることから、必要不可欠な事業である。
- 3 代替案との比較結果から、流域下水道での整備が経済的である。



事業の必要性が高いことから、引き続き継続する。